

Participation Artists

Adachi Daigo
Ikeda Terumasa
Kuwata Takuro
Sakai Naoki
Sago Michiko
Takahashi Kengo
Tatehana Noritaka
Niisato Akio
Hashimoto Chitaka
Fukahori Riusuke
Mitsuke Masayasu
Yamamoto Akane

山本茜
見附正康
深堀隆介
橋本千毅
新里明士
舘鼻則孝
高橋賢悟
佐合道子
坂井直樹
桑田卓郎
池田晃将
安達大悟

出展アーティスト

Panasonic
Shiodome Museum of Art
ROUAULT GALLERY

パナソニック
汐留美術館

CONTEMPORARY
JAPANESE
CRAFTS
REINTERPRETATION,
EXQUISITE CRAFTSMANSHIP,
AND AESTHETIC EXPLORATION

和

特別企画

巧

令和時代の
超工芸

絶

わこう
ぜっか

佳展

関連イベント

① アーティスト・トーク 要予約(定員150名)

「和巧絶佳展アーティスト・トーク 自作を語る 桑田卓郎×舘鼻則孝×深堀隆介」

「和」の章の出品作家の方々に自作について語っていただきます。さらに本展監修者が、制作意図や作家が考える日本の美など、作品理解を深めるポイントを聞いていきます。

日時 8月10日(月・祝) 午後2時～3時30分
パネラー 桑田卓郎氏、舘鼻則孝氏、深堀隆介氏
進行 木田拓也氏(本展監修者、武蔵野美術大学教授)

和巧絶佳展の「巧」および「絶佳」の章の出品作家のみなさんをお迎えし、「工芸家あるある」や「この工芸がすごい」といったテーマでトークを繰り広げるスペシャル企画。進行役のアートテラー・とに～氏が普段聞けない作り手の日常や考えを引き出します。

進行 アートテラー・とに～氏
見届け人 当館学芸員

②-1 「素材の美しさを引き出しちゃう工芸家」
日時 8月22日(土) 午後2時～4時
パネラー 安達大悟氏、坂井直樹氏、佐合道子氏、新里明士氏、橋本千毅氏

②-2 「手わざの限界を超えちゃう工芸家」
日時 8月23日(日) 午後2時～4時
パネラー 池田晃将氏、高橋賢悟氏、見附正康氏、山本茜氏

①・②の会場はいずれもパナソニック東京汐留ビル5階ホール

申込方法

- ハローダイヤル 03-5777-8600へお電話にてお申し込みください。
- 5月11日(月)より受付開始(受付時間 午前8時～午後10時)
- 必要事項 ①イベント名 ②参加人数(一度にお申し込みいただける人数は2名まで) ③氏名(要全参加希望者)

④住所 ⑤電話番号

*聴講は無料ですが、本展の観覧券(半券)が必要です。

*ご予約の際は簡単なアンケートにご協力いただきます。*予約受付は先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

*当日は予約時にお知らせする整理番号を活用してご入場いただきます。*お申し込み時にいただいた個人情報、本イベントの受講管理の目的でのみ使用し、参加希望者はこの目的での使用に同意したものとします。

*定員に達しなかった場合、当日受付をする場合があります。*未就学児はご遠慮ください。

1873年5月1日に開幕したウィーン万国博覧会に日本政府が公式初参加したことにより、日本の工芸が広く欧米に知られる契機となったことにちなみ、会期中毎月1日に青海波柄の手拭いをプレゼントいたします。
配布日 8月1日(土)、9月1日(火)

④
学芸員によるギャラリートーク
日時 7月21日(火)、8月15日(土) いずれも午後2時～ 予約不要、参加無料(本展の観覧券が必要です)

パナソニック汐留美術館



東京都港区東新橋1-5-1 パナソニック東京汐留ビル4階
4F Panasonic Tokyo Shiodome bldg, 1-5-1, Higashi-Shimbashi, Minato-ku, Tokyo 105-8301, Japan

お問い合わせ ハローダイヤル 03-5777-8600

交通のご案内
●JR「新橋」駅より徒歩約8分
●東京メトロ銀座線・都営浅草線・ゆりかもめ「新橋」駅より徒歩約6分
●都営大江戸線「汐留」駅より徒歩約5分

Access
●8-minutes walk from JR Shimbashi Station
●6-minute walk from Shimbashi Station of Tokyo Metro Ginza Line, Asakusa Line, and Yurikamome
●5-minute walk from Oedo Line Shiodome Station

<https://panasonic.co.jp/ls/museum/>

同時開催 | ルオーギャラリーにて、当館所蔵のルオー・コレクションの中から作品を展示しております。併せてご覧下さい。
●The Rouault gallery is exhibiting works by Georges Rouault from the museum collection. Visitors are welcome to visit the gallery as well.

次回予告 | 分離派建築会100年展 2020年10月10日(土)～12月15日(火)

●Upcoming exhibition: BUNRIHA 100, Oct. 10th to Dec. 15th 2020

2020.7.18 saturday - 9.22 tuesday and holiday

休館日=7月22日(水)、8月12日(水)～14日(金)、8月19日(水)、9月9日(水)、9月16日(水) 開館時間=午前10時より午後6時まで

(入館は午後5時30分まで) ●7月24日(金・祝)、7月31日(金)、8月7日(金)、8月28日(金)、9月4日(金)は夜間開館午後8時まで(入館は午後7時30分まで)

Closed: July 22, August 12, August 13, August 14, August 19, September 9 and September 16 Opening Hours: 10:00-18:00
(Open until 20:00 on Friday of July 24, July 31, August 7, August 28 and September 4) Admission until 30 minutes before closing time

見附正康《無題》2019 オオタファインアーツ蔵 ©Masayasu Mitsuke; Courtesy of Ota Fine Arts

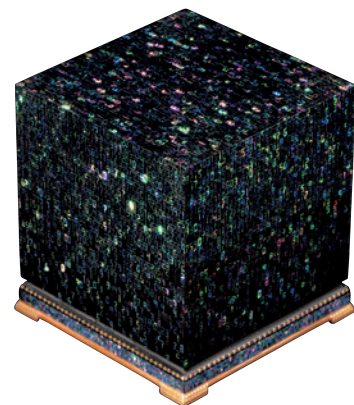
日本の伝統文化の価値を問い直す
「和」の美



山本茜
《截金硝子香合「無我」》
2016
個人蔵
© T. MINAMOTO



佐合道子
《とこしえ》
2018
作家蔵
写真提供：池田ひらく



池田晃将
《電光十進玉箱》
2019
個人蔵



高橋賢悟
《flower funeral-cattle-》
2017
個人蔵
撮影：橋本憲一



新里明士
《光器》
2019
Yutaka Kikutake Gallery



安達大悟
《つながる、とぎれる、くりかえす》(部分)
2020
作家蔵



深堀隆介
《四つの桶》
2009
誠編美術館、台湾



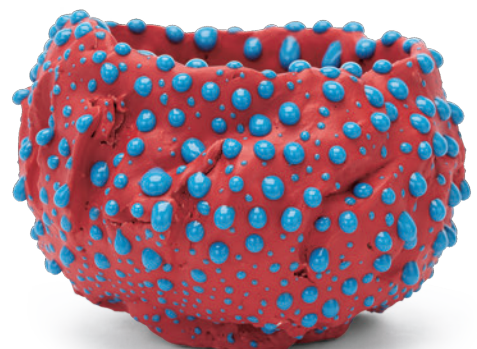
橋本千毅
《花蝶螺鈿蒔絵箱》
2018
個人蔵



坂井直樹
《湯のこもるカタチ》
2019
作家蔵



舘鼻則孝
《Heel-less Shoes》
2014
個人蔵
© 2020 NORITAKA TATEHANA K.K.



桑田卓郎
《境》
2015
個人蔵
©2020 Takuro Kuwata

This exhibition introduces twelve remarkable contemporary artists—all born in the 1970s onwards—who produce craft works that are rooted in Japanese aesthetics. As we enter a global era in which art and products are increasingly homogenized, Japanese crafts are valued for their unique expression. The featured artists use different materials and techniques to expand the traditional idea of “craft,” pursuing the beauty and diverse possibilities of handmade goods by reimagining the relationship between person and object. The exquisitely crafted works on display embody the three major trends in contemporary Japanese craft arts : reinterpreting traditional Japanese cultural values, pushing the limits of what can be crafted by hand, and exploring the aesthetic potential of crafting materials. They suggest new trends in contemporary Japanese crafting and offer visitors an opportunity to ponder what the future holds for these ancient arts passed down through generations.

本展覧会では、日本の美意識に根ざした工芸的な作品によって、いま最も注目されている1970年以降に生まれた12人の作家を紹介します。
グローバル時代をむかえ、私たちを取り巻く物の均質化が進むなか、日本各地で育まれてきた工芸や手仕事が独自の表現を生み出す資源として見直されています。工芸というジャンルにとらわれることなく、工芸素材を用い、工芸技法を駆使して工芸美を探究する本展の出品作家の取り組みは、人と物との関係を問い直すとともに、手仕事の可能性の広がりを予感させます。
展覧会タイトル「和巧絶佳」は現在の日本における工芸的な作品の三つの傾向——日本の伝統文化の価値を問い直す「和」の美、手わざの極致に挑む「巧」の美、工芸素材の美の可能性を探る「絶佳」——を組み合わせた言葉です。この展覧会が現在の日本の工芸の新しい兆候を示すだけでなく、これまで受け継がれてきた日本の手仕事の可能性を考える機会となることでしょう。

CONTEMPORARY
JAPANESE
CRAFTS

REINTERPRETATION,
EXQUISITE CRAFTSMANSHIP,
AND AESTHETIC EXPLORATION

工芸素材の美の可能性を探る「絶佳」

手わざの極致に挑む
「巧」の美

和巧絶佳
令和時代の
超工芸展

特別企画

令和時代の
超工芸

ぜっか
わこう

展